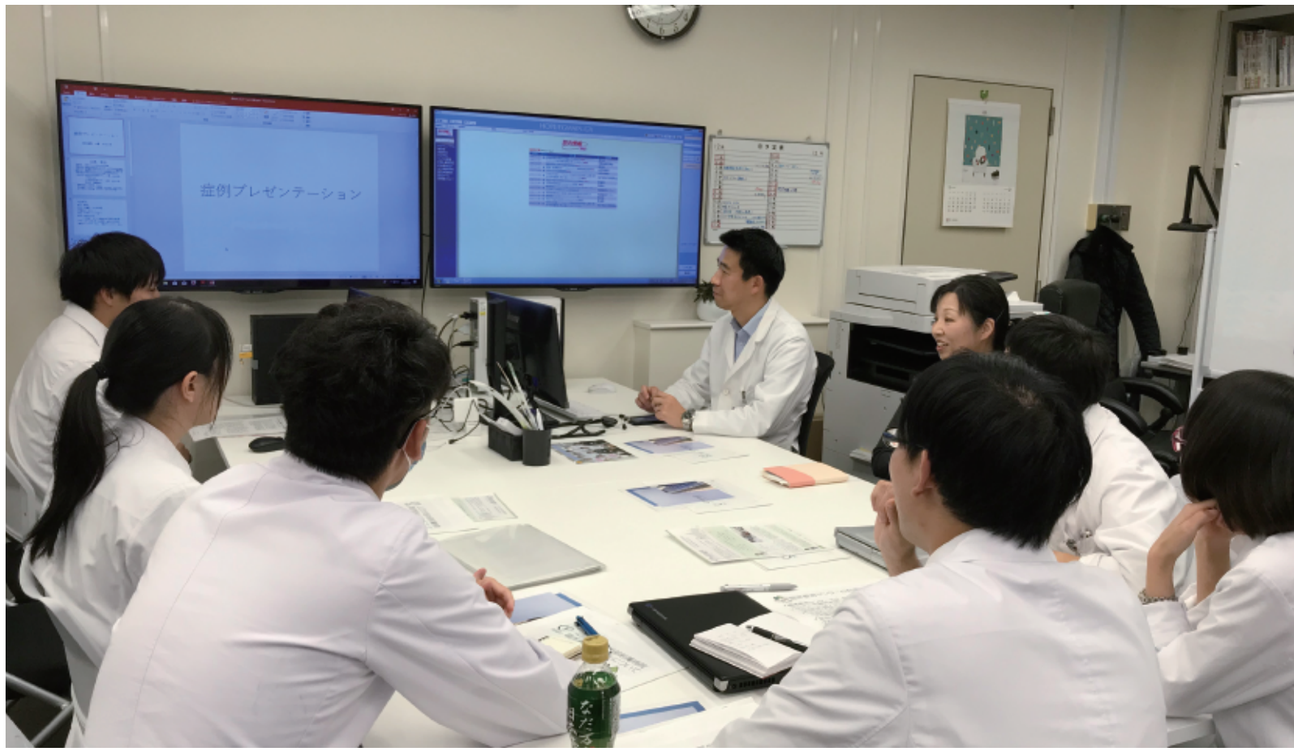
山口大学医学部 医学科後援会 会報

H30.12
Vol.12



臨床教育センターでの学生臨床実習

Yamaguchi University School of Medicine

特 集 1　地域イノベーション・エコシステム形成プログラム
特 集 2　臨床教育センターのご紹介
NEWS　最新治療がわかる映像を放送しています
お知らせ　平成30年度保護者見学会のご案内

NEWS　最新治療がわかる映像を放送しています

山口大学医学部附属病院の最新治療を紹介する番組「知っちょる?山大病院」が11月から、山口ケーブルビジョンで始まりました。附属病院の各診療科でどのような最新治療が行われているのか、医師自ら分かりやすくお伝えすることを心がけています。

「知っちょる?山大病院」のトップバッターは「放射線科」でした。放射線科長の伊東克能教授が「最新のIVR、最新の画像診断」についてイメージ図を交えて紹介しています。今後の放送は「泌尿器科」「呼吸器･感染症内科」「脳神経外科」「産科婦人科」と続きます。

「知っちょる?山大病院」の撮影現場（放射線科）

番組の「知っちょる?山大病院」のタイトルコール（番組の冒頭でタイトル名を告げること）も注目です。附属病院「たんぽぽ保育園」の4歳児と5歳児の園児12人が収録に協力してくれました。かわいらしく元気な声のタイトルコールも楽しみにしてください。

番組のタイトルコール録音に臨んだ「たんぽぽ保育園」の園児たち

「知っちょる?山大病院」は半月ごとに内容を更新して毎日2回（午前11時40分～、午後10時30分～）放送します。また、放送した内容は附属病院ホームページにも随時掲載しますので、山口県外にお住まいの方や放送を見逃した方にも、好きな時間にご覧いただくことができます。

附属病院は今後も地域のみなさまに高度な医療を提供するだけでなく、わかりやすく親しみやすい情報をお伝えしていきたいと考えております。後援会の皆様におかれましては、今後の情報発信にご期待いただきますと共に、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

附属病院の公式Facebookページができました

附属病院の公式Facebookページでは、附属病院や医学部の情報を随時お届けしています。附属病院ホームページのバナーまたは下記のQRコードからアクセスできます。

広報戦略センター
電話番号:0836-85-3032
E-MAIL: me268@yamaguchi-u.ac.jp

お知らせ　平成30年度　保護者見学会のご案内

毎年、保護者見学会を開催し、子どもさんがどのような環境で学ばれているかご覧いただいております。

今年度は、内容を変更し、4年生の臨床実習に入る節目となる「白衣着衣式」にあわせて開催いたします。

対象となる4年生の保護者の皆様にはご案内差し上げておりますが、あらためてお知らせいたします。

新入生保護者会以降、宇部市の医学部（小串キャンパス）にお越しになる機会も少ないと思われますので、この機会にご参加くださるようご案内申し上げます。

日時 平成31年1月25日（金）13時00分～
場所 山口大学医学部　講義棟C第3講義室
対象 医学科4年生の保護者
内容 カリキュラム及び医師国家試験の概要説明など
白衣着衣式の参観

申込 平成31年1月9日（水）までに医学部総務課へご連絡ください。
TEL:0836-22-2114
E-MAIL:me261@yamaguchi-u.ac.jp

昨年度の白衣着衣式の様子

発行:山口大学医学部医学科後援会事務局　宇部市南小串1-1-1　電話 0836-22-2111　gokai@yamaguchi-u.ac.jp
発行日:平成30年12月

ご　挨　拶

山口大学医学部医学科後援会会長
石原　得博

今年も山口大学医学部解剖献体者慰霊祭（10月12日に挙行）に医学科後援会会長として出席しました。岡学長、谷澤医学部長、杉野病院長や中村白蘭会理事長および沢山の遺族の皆さん、白蘭会会員の皆さんや学生の出席のもとに、出席者全員が御霊のご霊前に菊の花を供えました。

次に、今年度の行事などについて簡単に述べたいと思います。

まず一点は医師の国家試験についてです。山口大学の医師国家試験の合格率は昨年87.6%と全国平均を下回ってしまいましたが、今年の第112回は95.7%でした。国家試験に合格することは医学生にとって最低限の義務だと思いますので、教職員、学生が一丸となって国試に取り組んで頂きたいと思います。

2点目として山口大学の小串地区の教育ゾーンで、特に医学科学生に対する講義棟が古くなっていますが、今年度中には新たな講義室を備えた総合研究棟が竣工する予定です。新病棟も建設中ですので、ハード面は非常に充実し、医学教育には最適な環境になると思います。

3点目としては、山口大学で研修する卒業生が少なかったですが、次第に増えてきています。父兄の皆さんには出来るだけ山口大学で研修するように勧めて頂きたいと思います。どの企業も同じと思いますが、大学が発展するためには人材が最大の力です。また、大学は研究機関ですので、教員はその成果が世界の一流誌に掲載されるようなグローバルな活躍をして頂きたい。そうすれば、自然に人も増えます。また、全国的に問題となっている「緊急医師確保枠」の学生には後輩のためにも初心を忘れず、頑張って頂きたいと願っています。

医学部の学生に対しては、後援会以外からも霜仁会、朋和会および山口県医師会から多くの援助を受けています。医学部同窓会である霜仁会は医学生自身も会員であり、卒業後も全国何れの地にも先輩がおられ、お世話になります。朋和会は医学部附属病院の外郭団体で、教育、課外活動や医学祭で援助を受けています。山口県医師会からは医学科生の福利厚生のために多額の寄付を頂きました。

最後になりますが、山口大学に入学して良かったと思えるように、家庭と緊密な連絡をとりながら学生の福利厚生の手助けができればと思います。

教職員および会員の皆さん宜しくお願いします。

ご　挨　拶

山口大学医学部医学科後援会顧問
山口大学医学部長、医学科長
谷澤　幸生

平素より山口大学医学部医学科に対してご支援を賜り、ありがとうございます。この場をお借りして、お礼申し上げます。医学部長、医学科長として、この4月から2期目を務めさせて戴いています。医学部医学科のさらなる発展のために引き続き微力を尽くして参る所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

医学部及び附属病院の近況といたしましては、昨年のこの会報でもお知らせしました第2総合研究棟がいよいよ竣工間近となり、3月には完成記念式典を開催、4月から本格的に使用を開始します。1階から4階が主に医学科学生のための講義室、実習室等となり、5階は産学連携のためのオープンラボです。1階、2階の医学科の講義室は現在の第1講義室、第2講義室に代わるもので、50年以上を経て一新されることになります。主に2年生と4年生の講義が行われます。3階の実習室は、主に2年生の生化学実習、機能系実習（生理学、薬理学）が行われます。4階は少人数教育に対応するためのチュートリアル室、学生のための研究教育施設SMAC (The Student Medical Academia Center) ラボが配置され、最近特に重要視されているactive learning（学修者が主体となって能動的に学習すること）を一層強化します。設備を一新して新年度の授業に取り組むことになります。

附属病院も建物は竣工し、機器等の設置を進めているところです。6月1日に開院記念式典、6月24日に開院の予定です。新棟では救急救命センター、ICU、NICU/GCU（新生児のための集中治療室、新生児回復治療室）、手術室など、高次機能を担う施設が充実され、災害医療拠点施設としての機能も発揮します。附属病院は学生の実習の場でもあります。臨床実習は4年生の1月から6年生の7月末までの長期にわたります。新病棟完成後は、学生の自習室やセミナー室も充実が図られ、診療参加型の実習がより強化されることになります。

もう一つの医学部医学科の重要な事項は、医学教育分野別評価を来年度、受審します。これは日本医学教育評価機構が実施するもので、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準をふまえて医学教育の質を国際的見地から保証し、その充実・向上を図ることを目的としています。10月28日から11月1日までの5日間にわたって審査員が本学を訪問し、医学教育全般について審査します。これに向けて、現在、医学教育センターを中心に必要な改善、受審のための膨大な量の資料作成を行っています。このこととも関連する医学教育改善のための取り組みのひとつとして、先般、医学科教員だけでなく、学外の有識者や学生を加えたカリキュラム委員会を開催しました。委員会からの提言内容を教授会直属の教育企画会議に報告し、実際の教育改善に役立てます。

具体的な教育改善の取り組みの1つとしては、来年度カリキュラムから基盤系授業一部見直し、展開系講義の10%削減を行いました。カリキュラムに余裕を持たせるとともに、医用データーサイエンス教育など、新しい時代に即したユニットを新設します。また、全体としての授業数削減により、学年によっては極端に短くなっていた春休み、夏休みを「正常」に近づけることができます。

国際化としては、数年前から韓国の医学生を臨床実習に受け入れていますが、今年は、山口大学の協定校でもあるインドネシアのウダヤナ大学の学生3人を受け入れ、4週間の実習を行いました。英国からの学生も1年間受け入れており、研究などに従事しています。本学の学生も海外の学生と交流することで刺激を受けています。

山口大学医学部医学科は地域医療はもとより、日本の、そして世界の医学・医療を担っていく医師を養成するために、今後も教育の改善、施設整備に努めて参ります。保護者の皆様には一層のご協力、ご支援を心からお願い申し上げます。

平成30年度　理事会報告

■平成29年度　事業報告

平成29年度の実施事業から主な内容を抜粋してご紹介します。
＊ 平成30年度も事業継続しています。

1.キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎（吉田キャンパス⇔医学部キャンパス）のために、バス借上げ費用の一部の補助を行っています。

以前は各クラブの先輩が後輩を車で送迎することが常態化しており、事故等の可能性が危惧されてきましたが、平成24年度から、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を継続して行っています。

実施期間：平成29年5月～平成30年2月
　　計　131日　　乗車許可証発行数　110名
　　のべ乗車人数　2,619人
運行方法：大型バス又は中型バス
　　週5日（平日）運行、1日1往復
　　吉田キャンパス発：月～金曜日 18時00分
　　医学部キャンパス発：月～金曜日　22時30分

2.医学教育に関する事業

講座主催による学生向け特別講演会を以下のとおり実施しました。

①法医学講座
「薬害当事者から医療従事者を目指す学生のみなさんへ」
開催日時：4月20日（木）　14:45～16:20

②分子病理学講座
「どのようにして未知のペプチド・ホルモンを発見するか:摂食亢進ホルモンのグレリンを例にして」
開催日時：3月1日（木）　16:30～18:05

また、臨床実習の開始前に必須となるワクチン接種の自己負担額を軽減する助成、医師国家試験対策として模擬試験受験料の補助等を行っています。

3.保護者見学会の開催補助

新入生保護者会実施経費の補助のほか、平成24年度から、医学科4年生および5年生の保護者の皆様を対象とした保護者見学会を開催しております。

見学会では、医学科のカリキュラムや学生支援の取組み、臨床研修医制度やマッチングの仕組みについての情報提供と意見交換を行った後、キャンパスツアーとして頌徳碑（しょうとくひ／献体いただいた方の慰霊碑）や図書館、ドクターヘリ、クリニカルスキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」などの見学を行っています。

平成29年度は、1月21日（日）に開催し、69組122名の方にご参加いただき、医学部の教育・学生支援について、担当教員から直接ご紹介させていただく機会としてご好評いただきました。

見学会を通じて山口大学医学部及び附属病院への理解を深めていただき、山口大学をはじめ、山口県内での医師定着へ繋がることが期待されます。

4.高度学術医育成のための奨学金助成

平成22年度から、特に社会的要請が強い分野の研究医を養成する文部科学省の施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を要請する目的で「高度学術医育成コース」を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム（SCEAプログラム）と高度学術医育成一般プログラム（AMRAプログラム）をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム（SCEAプログラム）は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されおり、法医学を中心とする基礎系分野へ進路選択を行った場合には返還が免除されます。

■平成30年度　役員のご紹介

役員名	氏名	現職
会長	石原得博	山口大学名誉教授
副会長	福田進太郎	霜仁会副会長
顧問	谷澤幸生	医学部長
保護者理事	平野　均	
	村田和也	
	和田　尚	
	苅田幹夫	
	河野裕夫	
	杉山修一	
	寒竹　司	
	田中伸幸	
	黒髙裕樹	
	平岡賢悟	
	阿賀康弘	
	縄田修吾	
医学科関係等理事	杉野法広	病院長
	木村和博	教　授（学生委員）
	篠田　晃	教　授（学生委員）
	美津島　大	教　授（教務委員）
	伊東克能	教　授（教務委員）
	白澤宏幸	霜仁会理事
監事（保護者）	河野裕夫	
監事（医学科関係）	中村和行	山口大学名誉教授

■医師国家試験受験状況

発表日	新卒者			既卒者			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
第110回（28.3.18）	117	113	96.6%	18	11	61.1%	135	124	91.9%
第111回（29.3.17）	117	108	92.3%	12	5	41.7%	129	113	87.6%
第112回（30.3.19）	117	112	95.7%	16	9	56.3%	133	121	91.0%

特集1 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム

次世代CAR−T細胞で切り拓く未来の免疫療法

山口大学大学院医学系研究科免疫学講座
教授 玉田 耕治

山口大学大学院医学系研究科免疫学講座の玉田でございます。後援会の皆様におかれましては、謹んでご挨拶を申し上げます。

山口大学は、文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に、平成29年に山口県と共同申請し、「革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ市場の開拓および創造」というテーマで採択されました。

このプログラムでは、イノベーションの原動力となるコア技術を基に地域の成長に貢献しようとする大学を支援し、社会的にインパクトの大きい事業化の成功モデルを創出するとともに、蓄積されるノウハウを新たなプロジェクトに生かす地域イノベーション・エコシステムの形成と地方創生を実現することを目的としています。

山口大学は2つの事業化に向けた研究プロジェクトを展開しており、今回はそのひとつである「がん免疫療法プロジェクト」をご紹介いたします。

※地域イノベーション・エコシステムとは?：行政・大学・研究機関・企業・金融機関などの様々なプレーヤーが生態系のように時代にあわせて進化しながら有機的に結びつき、それぞれの地域や経済圏特有の強み・資源を活用しながら、イノベーションが絶え間なく効果的かつ効率的に創出される環境を意味します。

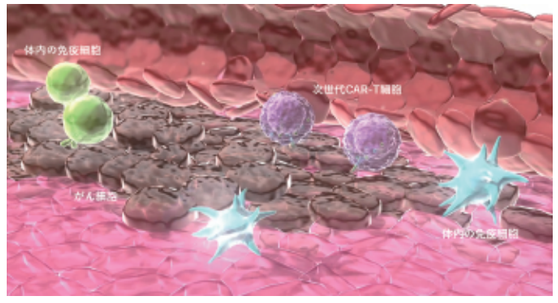
○がんと免疫療法

現在、がんは我が国の最も多い死亡原因となっており、国民の2人に1人が罹患し、山口県内でも約4人に1人が、がんで死亡しています。これまでの治療法として一般的に知られているものは、手術などの外科療法、抗がん剤を投与する化学療法、放射線によってがんを消滅させる放射線療法の3つですが、私どもの研究チームは、新たな治療法であるがん免疫療法の研究を20年以上続けています。このがん免疫療法は、人間が持っている免疫の力を使って、がん細胞を攻撃し、がんを治すという新しい第4の治療法です。

がん免疫療法のひとつとして一番よく知られているのが、オプジーボ（免疫チェックポイント阻害剤）です。皆さまご存知のとおり、京都大学の本庶佑特別教授は、この薬を開発された功績により、今年度のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。しかし、この素晴らしい治療法をもってしても、進行したがん患者の6〜8割には効果が認められないこともあり、乗り越えなければならない課題が多く存在します。

○山口から世界へ 未来の治療開拓

これら進行した再発難治性のがんで免疫チェックポイント阻害剤



が効かない患者さんたちを救うために、キメラ抗原受容体発現T細胞（CAR−T細胞）療法と呼ばれる治療法の開発が世界的に進められています。CAR−T細胞療法とは、がんの患者さんからリンパ球を取ってきて、そのリンパ球の遺伝子を組み替えることによって、がん細胞を攻撃する細胞にし、患者さんに戻すというものです。この治療法は、白血病やリンパ腫などの血液がんに対しては、米国で2017年に承認されています。私どもはさらに固形がんに対して強い攻撃力を示す“次世代CAR−T細胞”を開発いたしました。すでに動物実験で効果があることを証明し、現在は人への治療効果を証明するための研究開発を進めています。また、一般的なCAR−T細胞の作製には約3〜4週間を要するため、その間に病状が悪化する可能性があります。私どもの研究チームは、がん患者さんではなく健康な人から取り出したリンパ球でCAR−T細胞を作製する手法の開発に取り組んでいます。この仕組みが完成すると、すぐにがん患者さんの治療が開始できるだけでなく、一人の健康な人からCAR−T細胞を大量に作製できますので、スケールメリットとしてのコスト削減が期待できます。

新しい治療法の開発はがん患者さんの助けになるだけではなく、例えば免疫製剤の生産拠点を山口県に構築することで新しい産業に結びつきます。創出された産業によって、多くの人材が集い、山口県から世界に向けてイノベーションを起こすための源泉としたいと考えています。

後援会の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○お問い合わせ
山口大学 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム
革新的コア医療技術実用化推進本部
E-MAIL：i-comet@yamaguchi-u.ac.jp

特集2 〜ここから始まる新しいカタチの臨床研修〜 臨床教育センターのご紹介

山口大学の卒後臨床研修が変わる!!
〜プライマリ・ケアや一次・二次救急症例を経験できる研修の充実化〜

臨床教育センター
副センター長 齊藤 裕之

平成30年1月より臨床教育センター副センター長を拝命しております齊藤裕之と申します。医学科後援会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、医学部附属病院では、平成16年度からの卒後臨床研修制度開始以降、研修医採用者数が伸び悩んでおり、研修医の確保対策が喫緊の課題となっています。（「研修医採用者数の推移」を参照）

大学病院での研修を敬遠する理由が何であるのか、学生にアンケートを実施してみると、大学病院では人的資源や施設・設備面等申し分なく充実した教育体制の下で非常に専門性の高い研修ができる反面、プライマリ・ケアや一次・二次の救急症例を経験できる機会が少ないという課題が明確になってきました。

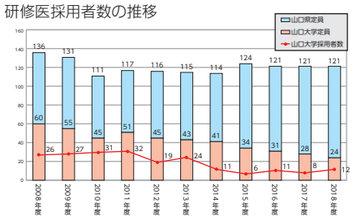
当課題を解決し、これまで以上に臨床教育の充実を図ることを目的に、平成30年1月より近隣の協力病院である宇部興産中央病院と連携を強化し、同病院内にサテライト教育施設「臨床教育センター」を設置、運営を開始しました。当センターには教育力が高く指導経験豊富な大学指導医が常時在籍しており、学習用大型モニタや個人デスクの整備に加え、学内LANや文献検索等の各種サービスも利用可能となっており、大学同様の最適な学習環境の下、研修医や学生が臨床研修や臨床実習に精励できる体制を完備しております。医学部附属病院と臨床教育センターとが強力な連携体制を構築し、人間性豊かで幅広い診療能力を備えた医師を育成していきます。（「臨床教育センターの概要」を参照）

運営開始からようやく1年が経過するところであり、本格稼働はまだまだこれからですが、当センターでの臨床研修や臨床実習を希望する研修医や学生も順次増加してきており、医学部附属病院の研修医の増加や山口県内への若手医師の定着促進に微力ながら少しでも貢献できればと考えております。研修医や学生が素晴らしいキャリアを形成していけるように卒前・卒後の質の高い臨床教育を通じて最大限の支援を行っていきます。

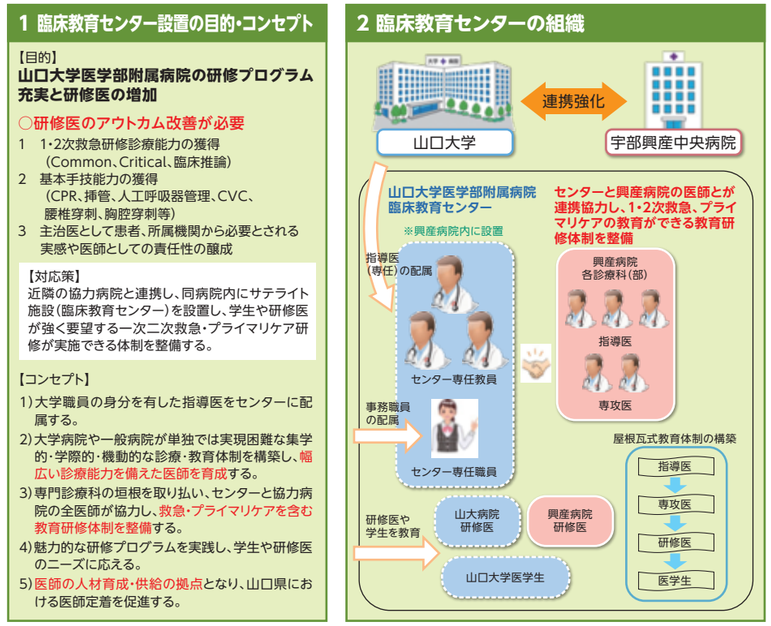
皆様から忌憚のないご意見やご要望をいただき、当センターの活動を一層実りあるものへと発展させていければと考えております。引き続きご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床教育センターでの研修風景

研修医採用者数の推移



臨床教育センターの概要



第74回 医学祭
～笑医ん祭!～
We're In SMILEs

第74回医学祭実行委員会
委員長
野村　翔也

11月2日から4日の3日間で、第74回山口大学医学祭が開催されました。テーマとして掲げた「笑医ん祭!～We're In SMILEs～」は、運営にあたる医学生だけでなく、ご来場いただく地域の皆様も合わせたすべての方々の笑顔で囲まれる医学祭にしたい、との思いで決定いたしました。幸いにも三日間を通して天候に恵まれ、非常に盛り上がった医学祭となりました。

前夜祭である金曜日には1年生が主体となって行われる「クラブ対抗選手権」があり、ダンスやコント等が行われました。本祭1日目の土曜日は学生LIVEで幕を開けました。BINGOではカードも完売となり、例年以上の来場人数でした。その後、お笑いライブでは「ハイキングウォーキング」「大西ライオン」「フロントライン」の3組が、会場を爆笑の渦に巻き込みました。また、Mr.&Missコンテストや様々な障害、お題をクリアして一番を決める鉄人レースも行われ、例年以上の盛り上がりを見せたように思いました。本祭2日目の日曜日には、ダンスサークル「Cocktail」の皆様をお呼びしました。新企画では「裏ミスコン」が開催され、今までにない盛り上がりを見せました。また、食文化研究家の永山久夫先生にお越しいただき、『「人生100年時代」の長寿食』と題してお話していただきました。会場には老若男女問わず様々な方が足を運んで下さり、大盛況となりました。2日目の目玉でもあるアーティストライブではバンドの「ねごと」「the peggies」をお呼びし、会場はお客様で埋め尽くされ、素敵なLIVEとなりました。

その他、ドクターヘリ展示や骨髄バンクドナー登録、HIV抗体検査、市民のための心肺蘇生法講座などが行われ、山口大学医学部と市民の皆様を繋ぐきっかけとなったように思います。大きなトラブルもなく、3日間の医学祭は大盛況に終わりました。

この医学祭を通して一番感じたことは、お客様も学生も笑顔だったことです。テーマである「笑医ん祭!」に則り、来場された方々も、運営する学生も、全員が心から全力で楽しめる医学祭を作り上げることが出来たと、しみじみと実感しております。

最後になりますが、今学祭に関してご協力をいただきました方々に心から感謝申し上げます。至らぬ点は多々あったことと存じますが、皆様方のおかげをもちまして、無事医学祭を終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

今後とも医学祭に関しまして、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。

サークル活動紹介

学生自治会長
医学科4年
石田　眞子

本年度、山口大学医学部学生自治会で会長職を務めさせて頂いております、医学科4年の石田眞子と申します。

学生自治会とは、山口大学医学部に所属する全医学生から成る、学生のみによって構成される組織です。活動内容は、学生主体の組織・団体(部活やサークル)の統括、国家試験委員など各種委員会の補助など、学生全体に関わる企画の実施です。

他大学と比較しましても、山口大学医学部では部活動が非常に盛んであり、実に8割以上の学生が部活動に所属しております。本年度の西日本医科学生総合体育大会におきましては、水泳部や弓道部が上位入賞と好成績を残しています。

山口大学医学部は文化的な活動も活発です。国際医療研究会では部員が海外へ行き、現地の医療・福祉に関わることで医学だけでなく様々な文化や価値観について学ぶ機会をもっています。サークルのひとつであるCode Orangeは心肺蘇生法を中心としたBLSの普及を目的として活動しており、医学祭などの機会に市民の方にも普及活動を行っています。また、今年度はBLS選手権の中国四国地区大会で準優勝を果たし、全国大会への出場が決まっております。以上のように学生は文武両道の精神で励んでおり、学生自治会はこのような学生の活動を十分に支援していきたいと考えております。

他の自治会の活動と致しましては、今年度も吉田-小串間での平日におけるバス運行を実施しております。繰り返しになりますが、山口大学医学部では8割以上の学生が部活に所属しております。しかし、1年生は教養教育のために山口市のキャンパスで学生生活を送っています。部活動に参加するためにはキャンパス間での1年生の送迎が必要不可欠です。このバス運行の活動を継続できるのはひとえに山口大学医学部に関係される方々を始めとした様々な方のご理解、ご支援あってのことと考えております。この場を借りて感謝申し上げます。

近年、新専門医制度や2023年問題等、医学教育を取り巻く環境が変わりつつあります。山口大学医学部でもカ

リキュラム・時間割等の大幅な改変がなされている段階です。これらの改変の中、学生の医学教育に対する興味関心が高まっております。これら学生の声を拾いまとめ、学生の総意として大学側に届けるのも学生自治会の使命だと考えております。

山口大学医学部の様に自治会の活動が活発な大学は全国的に見ても数が少なく、このような活動が可能となっているのも、自治会の活動に寛大なご理解を頂きました先生方の助けがあってのことだと考えております。この恵まれた環境を積極的に活かし、私たち学生はよき医療従事者となるために日々の勉学に一層励んで参りますので、今後とも山口大学医学部、また学生自治会をよろしくお願いします。